

第一部

春模様 — 狐の夢

詩… 高原桐
曲… 松村百合
歌… 伊藤香代子(S)
笙… 三浦礼美
薩摩琵琶… 首藤久美子
チェロ… 山澤慧

盈 — ソプラノと二面の箏のための

恋文 / 晦 月の夜想曲

詩… 原かずみ
曲… 引野裕亮
歌… 末次琴音(S)
箏… 花岡操聖
箏… 内藤美和

オラシヨ考

— さんじゅあん様のうた

詞… 生月島山田集落の
隠れキリシタンたちの
口承によるウタ
曲… 高橋久美子
歌… きむらみか(S)
三味線… 本條秀慈郎
尺八… 小濱明人

折り鶴抄 — 鶴の嘆き

詩… 木下宣子
曲… 池上眞吾
歌… 森田澄夫(T)
三絃・胡弓… 多々良香保里
箏… 日吉章吾
十七絃… 吉澤延隆

万葉恋の譜 I (改訂版)

— 声と二十五絃箏のために
詞… 万葉集より
曲… 新実徳英
歌… 青山恵子(MS)
二十五絃箏… 山本亜美

第二部

組曲『はるかなる想い』

— 薪能葵上に寄せて

紅い火 / 葵上

詩… 伊豆裕子
曲… 池上眞吾
歌… 横山政美(S)
箏… 日吉章吾
十七絃… 吉澤延隆
尺八… 田嶋謙一

五色沼

詩… 藤井慶子
曲… 田丸彩和子
歌… 百合道子(MS)
尺八… 田辺頌山
薩摩琵琶… 首藤久美子

月に遊ぶ

(改訂初演)

詩… 吉田義昭
曲… マーティン・リーガン
歌… 佐竹由美(S)
尺八… 素川欣也
二十絃箏… 松村エリナ

懷郷 その遙かな空を

曙光

北條稲荷幻想

詩… 貞松瑩子
曲… 増本伎共子
歌… 青山恵子(MS)
尺八… 素川欣也
ヴァイオリン… 蓑田真理

新たな船出に寄せて

「日本歌曲協会」代表 森田澄夫

本日はお忙しいなか、「日本歌曲協会」設立記念演奏会にご来場頂き、誠にありがとうございます。

これまでどの音楽団体も継続して行うことがなかった、古来より日本の心を伝えてきた伝統楽器を共演楽器とし、声楽家が歌う新しい日本歌曲の創造と普及活動を「邦楽器とともに」の旗印の下に十一年間行ってきました。

その間、およそ七十曲の作品を世に送り出すことが出来たのは私たちの大きな喜びです。これらの作品の中に、再演、再々演の曲も見られるようになり、邦楽器と声楽の共演の可能性を実感している次第です。

この度、更に深化発展させるべく、有志とともに新たに「日本歌曲協会」を設立いたしました。設立にあたり、詩人、作曲家、声楽家、そして、邦楽家の四者によるコラボレーションというこの会の理念を視覚化したロゴマークを遠藤湖舟氏に作成して頂きました。その理念を達成すべく、今後はこの企画に賛同される方々を募り、「邦楽器とともに」第二ステージとして、新たな一歩を踏み出します。

とは云え、現実には弱小団体としての船出です。しかし、この十年間の活動を通じ、多くの作曲家、邦楽家の知己と賛同・共感を得、今日の演奏会を迎えることが出来ました。今後この小さな団体の運動が、同じ志を持つ、より多くの人々の中に浸透し、共に歩んでゆくことが出来たら、私たちの未来は大きく広がることと思っております。様々な課題を克服しながら一歩一歩前進してまいります。

今回、プログラムにメッセージをいただいた各界の方々をはじめ、作品の提供、演奏に外部から快くご参加下さった多くの皆様に感謝申し上げます。

そして、この記念演奏会開催にご協力下さいました全ての方々に御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

◆春模様―狐の夢

北国の未だ寒さの残る大気の中にも、春は確実に到来し花々が開き始めます。かつて、そのような弘前のさくら吹雪の中で、夢を見ているかのような狐の赤ん坊に出会ったのどかな一日を、いつまでも忘れられずにおります。邦楽器の笙は天と地の間に漂う音として、琵琶は命のはじける音、チェロは時の流れをうけもつのでしうか。東国の被災地の浜辺にも、いつものように浜梨が芽吹いていると聞きました。五年半が過ぎた今尚、この作品から命の息吹を感じてくださいますように、希望が耀いてくれますように祈るばかりです。

〔高原桐（詩）〕

◆盈―ソプラノと二面の箏のための

作詩の原さんから、今回の詩と『盈』というタイトルを頂いて、源氏物語の空虚思想的な儚さの匂う、少し雅やかなロマンスを想像するとともに、近代的なマンションから月を眺め、恋に溜息する女性の姿が浮かびました。そこで、お箏の雅やかな音色に、時折ハーブのような響きを混ぜるように工夫してみました。また詩への付曲にあたり、「詩の思い」に、歌を聞く人が出逢う時の印象を大切にしたいと思い、原さんとも相談し、詩の流れのままには歌われない箇所があります。お聴き頂く皆様に、今も昔も変わらない、人を感じる気持ちを頂ければ幸いです。

〔引野裕亮（曲）〕

◆オラシヨ考―さんじゅあん様のうた

十六世紀、キリスト教と共に沢山の西洋コトバと音楽が伝来した。オラシヨはラテン語の「Oratio」お唱えのこと。が、その後の禁教令で潜伏したキリシタンたちの間で中身はみごとガラパゴス化

し、そこに（クラシックならぬ）ユニークなJ（ジェイ）ミサ曲「歌オラシヨ」が生まれた。何が邦楽器だと言って、日本生まれのニホンゴ育ちの人の声ほど「邦楽器」なものはない。西洋の洗礼を受けた日本の歌、つまりニホンカキョクの一つの完成形がここにある（！）と騒ぐ「邦楽器」な私に、作曲家はこんな「西洋的」なウタの試みを仕掛けてくれた。日本音楽の時間軸を往きつ戻りつして。

〔さむらみか（歌）〕

◆折り鶴抄―鶴の嘆き

原爆の少女・禎子が折った、指先ほどの鶴が、今年五月、大きな仲間を迎えた。涼しげな青と、暖かい赤の模様の四羽の鶴が、広島に舞い降りたのだ。現職の米大統領とともに……。九年前、広島市の平和記念資料館で、禎子の小さな折り鶴の輝きに心を奪われた声楽の森田氏から、ぜひこれを作品に、と声をかけられた。これまでに語り尽くされたテーマに戸惑いつつ、鶴を主人公とした視点でならと、取り組んだのがこの作品だった。少女の生きたい一念が凝縮された、宝石のような折り鶴よ、思いがけない友を得て、おまえたちの嘆きは、少しは癒されたりするか？

〔木下宣子（詩）〕

◆万葉・恋の譜Ⅰ

―声と二十五絃箏のために

『万葉集』は世界に誇れる日本の古典文学である。天皇から名もなき庶民の数々の歌が集められている歌集は稀有であろう。古代歌謡をどのような音調・旋律で「歌曲」にするかは各々の作曲家により大いに異なるだろう。今回の私の選択は、「なるべく易しく、親しみ深く」という

方向のものであった。「凝り過ぎぬように」と自らにクギを刺した、といって良いかもしれない。

この度の再演にあたり、二十五絃の領域を拡大すべく若干の改訂を試みた。今後も日本の古典と伝統楽器の組み合わせでどこまで「地に足のついた」新たな発展が可能なのか考えていきたいと思う。

〔新美徳英（曲）〕

◆組曲「はるかなる想い」

―新能奏上に寄せて

「怖い話を」と言う池上先生の希望にしばらく躊躇していました。「六条の御息所なら」と言う横山さんの言葉に、かつて観た「日比谷シテイ新能」の情景を思い出しました。光源氏の愛を失った上、加茂の祭りの車争いで奏上に恥をかかされた怨みが重なり、その執心は身体を離れ、嫉妬の念をもやす。舞台の上で葵上の象徴である小袖を相手に、激しく責めさいなむ六条の御息所の霊、比叡山の行者小聖の祈りとの凄惨な争いの果て悪霊はしだいに成仏してゆくのでした。ビルの中の能舞台は、不思議な幽玄の世界に誘い、時を経て鮮やかによみがえります。

〔伊豆裕子（詩）〕

◆五色沼

以前、磐梯高原にある五色沼を訪れた折り、その神秘的な、なまめかしいほどの美しさにすっかり魅了された。沼は五色の衣をはおり深い底なし沼のようによどんでいた。水面に浮かぶ水の眼にじっと見つめられると、どこまでも深い沼の底に引き込まれてしまいうで恐怖さえ感じた。幻想のなかで表われた白髪の老人の言葉は不思議な意想をおびて私の心をとらえた。沼は

このほとりにたたずむ人達をはんなりと染めてゆく。抽象的な詩ではありませんが、人生の無限の流れをイメージして、この詩をとらえて頂ければ嬉しく存じます。

〔藤井慶子（詩）〕

◆月に遊ぶ

我が国は北半球にあり、四季の美しい国である。その四つの季節の月の姿を、満ち欠けと重ねてみた。人は様々な場所で見つめ、月もまた人に寄り添って輝いているように思う。一人一人、月の見方、月への想い出は異なっている。そして好きな月の形、輝きも異なっていることだろう。月にも年齢があり、私たちの人生や生きる姿勢にも似ているように思う。月が海に映る時、私は実際の月の姿を見つめたいと思った。

〔吉田義昭（詩）〕

今回は、初演時に課題とされた日本語の高低アクセントを、より適切に修正した改訂版で初演します。

〔マーティン・リーガン（曲）〕

◆懐郷その遙かな空を

作詩の貞松瑩子氏は、今年七月十四日にお亡くなりになりました。癌を患われ、「私は余命××ですのよ」と折に触れておっしゃっていましたが、作品の完成、上演ごとに「蘇生」され、亡くなる直前までその調子でした。この作品は二〇一三年に、危篤からよみがえられた直後のもので、詩の内容にもそれが反映しています。（長年過ごされた小田原の思い出と、長寿を全うされた御尊母への想い出）私にとっては僅か数年間のお付き合ひでしたが、心から感謝を込めて…そして、ご冥福を…

〔増本伎共子（曲）〕